

第6回北大山岳館講演会

# 身近な山

—花と絵と山と—



羊ヶ丘より空沼岳を望む 鮫島惇一郎画 1981年2月

**講師：鮫島惇一郎**

**2013年10月12日(土) 14:00～16:00**

**会場：北大山岳館(北大構内恵迪寮東側)**

入場無料、定員50名、先着順

電話：011-716-2111内線5131 携帯：090-6870-5120

Email: sangakukan@aach.ees.hokudai.ac.jp

山岳館の位置など詳細は山岳館の下記ホームページをご覧ください

<http://aach.ees.hokudai.ac.jp/xc/modules/Center/index.htm>

# 身近な山

—花と絵と山と—

1942年の夏、一週間ほど級友に誘われて愛山溪温泉にあった登山事務所で寝起きしたことがあります。北大予科生であった級友の兄貴たちが、ここでアルバイトをしているので、更にその手伝いをするということでありました。いうなればアルバイトのアルバイトという仕掛けです。薪割り、登山道の草刈り、登山票の発行、結構忙しいのです。

三日目だったでしょうか、早朝窓際のカーテンが薔薇色に染まっているのです。只事ではありません。カーテンを開けて見上げた空、なんと表現をしたらよいのでしょうか。戦慄が走る！とでもいえましょう。これが山の空か！幾度も心に問い掛けた言葉です。

温泉に付随して洋風の小屋があります。これがかのヒュッテと呼ぶ外来語と、その造りと調度品、そのかもしだす不思議な雰囲気は、人の気持ちを魅了してやみません。

せっかく来たのだし、草刈りも先が見えたから、今日は山に連れて行ってやると兄貴たちがいます。手伝いは親方のいうことに従順でなくてはなりません。幸い登山客もおりません。事務所に鍵をかけて永山岳へ出発です。

こんな高いところに来たことないだろうと、兄貴たちは弟分を従えて得意そうにみえました。2046mと表示された永山岳です。深い谷のむこうには愛別岳がありますが、目の前の谷は人を拒絶する存在です。覗き見ることさえはばかれる思いがありました。

高山にはお花畑が展開いたします。湿原、砂礫地、草原、雪田など、人の心を捕らえて止まぬ存在です。森林帯を越えた山とはなんと魅惑的な存在でしょうか。

振り返ってみると、この一週間ほどの山の生活が、その後の生き方に深く影響を与えてきたといえるかもしれません。心に残された幾つかの出来事を拾ってみます。

☆空沼岳の頂上から見えた緑の草原は、通過困難な根曲竹の密林であったこと。

☆南瓜と芋と、宿屋の好意の姫鱒で恵庭岳に登頂できたこと。

☆空沼岳で初日を迎えようと目指したが、雪崩に巻かれて遭難騒ぎになったこと。

☆エンレイソウ属植物の遺伝的解析のために、理学部中庭に大イグルーの制作。

☆山岳部冬期合宿で勝岳荘失火事件。

☆北海道開発大博覧会（1950）高山植物館の手伝いに、旭川と黒岳往復8回ほど。

☆無人島渡島大島へ渡る。

☆歩々の会の創設 代表は坂本直行さん。

☆日高山脈、夕張岳・芦別岳、暑寒別岳、知床半島などの自然生態系の調査。

☆藻岩山で救急搬送を受ける？ 山は登る山から眺める山へ…………。

## 講師プロフィール

### 略歴

- 1926年 東京に生まれる
- 1947年 北海道大学理学部札幌臨時教員養成所卒業
- 1950年 北海道大学理学部植物学科卒業
- 1955年 北海道大学理学部助手
- 1956年 林野庁に出向、林業試験場北海道支場勤務
- 1985年 同試験場を辞職、自然環境研究室を開設  
北大山の会会員

### 著書

「草と樹」北海道新聞社 1977、「札幌から見える山」（共著）北大図書刊行会 1981、「原色図譜 エンレイソウ属植物」（共著）北大図書刊行会 1987、「北の森の植物たち」朝日新聞社 1991、「草樹との出会い」北海道新聞社1995、「藻岩山の観音さま」北方林業会 2003、「回想の風景・札幌」富士コンテム 2007、「北国の花暦」北方林業会 2008、「北方林業一創刊65年の点描一」北方林業会 2013、など多数

